

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成30年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 臨時会員総会開催

平成30年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会が平成31年3月15日に大宮ソニックシティ906号室で開催された。本総会の議案は、2019年度事業計画案・収支予算案である。総会は濱本隆明事務局次長の進行により始まり、神山清志会長の挨拶が行われ、会員の皆様のご協力に感謝の意を表された。次に名誉会員の砂川進氏、原繁一氏の紹介があった。

議案審議に入る前に出席者から石橋佳朋氏（東武医学技術専門学校）が議長に選任され、石橋議長より総会役員が指名された。資格審査委員長に長岡勇吾理事（さいたま赤十字病院）、資格審査委員には東部地区から松内萌氏（越谷市立病院）、南部地区から柿沼智史氏（川口市立医療センター）、西部地区から大出淳氏（埼玉医科大学総合医療センター）、北部地区から田中亜紀氏（熊谷総合病院）が任命され、書記には藤井豊善氏（蕨市立病院）、飯塚桂子氏（東武医学技術専門学校）が、議事録署名人には長谷川隆氏（浦和医師会メディカルセンター）、関口久男氏（埼玉県済生会栗橋病院）が任命された。

審議前に石橋議長から、「本日18時30分現在、出席者は71名、委任状出席者数は1,702名、議決権行使書数446名、合計2,219名は、第一号から第二号議案を審議するための必要出席者数である3月1日現在の全会員数3,031名の過半数を越えており、定款第十八条の規定により本総会が成立しています。」と宣言された。（議会の出席者確定人数は85名で合計2,233名）

議案審議について長岡議事運営委員長より議事運営が提案され、それに沿い石橋議長の進行により開始された。臨時会員総会の第一号議案である2019年度事業計画案が執行部より提案され、第二号議案である2019年度収支予算案が松岡副会長より提案された。第一号議案は議案議決行使書446名中反対2名、拍手多数にて承認された。第二号議案は、議案議決行使書446名中反対1名、拍手多数にて承認された。

これにて総会役員、書記が解任となり臨時総会は閉会となった。総会は、石橋議長による円滑な議事進行と出席して下さった会員の皆様のご協力により滞りなく開催することができた。石橋議長、総会役員ならびに会員の皆様に深謝申し上げる。

この後、本年12月1日に開催される第47回埼玉県医学検査学会の進捗状況を来住野修学会長（埼玉医科大学保健医療学部）から報告があった。学会テーマ：「飛翔」、サブテーマ：－『進化』から『昇華』へ－に沿った市民公開講演、学会企画など魅力的な企画を検討中とのことで期待が広がる内容であった。



「追記」

総会に先立ち、第46回埼玉県医学検査学会（平成30年12月 2日開催）の、優秀発表賞、学会長特別賞、埼臨技奨励賞の表彰があった。

受賞された方には謹んでお祝いを申し上げます。

○優秀発表賞

- 佐藤 雅紀（防衛医科大学校病院）
- 江尻 昂永（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）
- 増田 夏弥（さいたま赤十字病院）
- 山崎 聡子（埼玉県立小児医療センター）
- 寺内 紀子（上尾中央医科グループ アルシエクリニック）
- 菅原 太治（さいたま市民医療センター）

○学会長特別賞

- 酒井 美恵（医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院）
- 保坂 樹里（獨協医科大学さいたま医療センター）
- 村上 綾（自治医科大学附属さいたま医療センター）

○埼臨技奨励賞

- 小山田 卓哉（埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科）
- 橋場 愛優美（埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科）

（文責：小島徳子）



優秀発表賞

学会長特別賞

埼臨技奨励賞



平成30年度 都道府県技師会リーダー育成研修会開催



本会初めてとなる都道府県技師会リーダー育成研修会を平成31年2月24日(日)午前9時から午後5時まで埼玉県総合医局機構地域医療教育センターにて開催いたしました。この研修は、日臨技及び都道府県技師会の組織活性化及び組織強化学業として中堅以上の経験を有する臨床検査技師を対象に組織管理・人材育成など病院内における役割と組織目標達成に向けた事業展開の考え方について学ぶことを目的とした研修会となっています。今回、県内15施設21名の方に参加していただきました。研修は、まず午前日に日臨技代表理事副会長である横地常広氏より『臨床検査技師の進むべき未来と次世代のリーダーに求めるもの』『日本臨床衛生検査技師会、都道府県臨床検査会の事業活動について』の講演をいただき、昼食後、埼臨技理事濱田進行のもと臨床検査技師が積極的にチーム医療の一員となるためにはどうすればよいか？をテーマにMTSステップ表（MTS：創造性目標達成システム）を用いて全員参加型のグループワークを行いました。

グループワークの進行として、まず、MTSステップ表についての説明と作成例について説明を行い、その後、参加者は5つのグループに別れ、個人のステップ表作成・グループ内で意見を集約し、グループごとに発表を行いました。発表内容についての疑問点・質問事項については、参加したメンバーが、個々に対応する形式としました。短時間の中、活発な意見交換ができ、担当する部門や役職は違えども、グループで作成したステップ表の内容や取り組み姿勢から、組織の活性化及び強化のきっかけとなる実りある研修会となりました。

参加者の皆様お疲れ様でした。

(文責：濱田昇一)

以下に参加された方の感想を紹介します。

春日部市立医療センター

小林 こずえ



2月24日に都道府県技師会リーダー育成研修会に参加させていただきました。現在、主任という立場にながらもリーダーとしての資質とは何か模索していました。今回改めて学ぶ事ができたことに大変感謝しております。

午前の部では、若手技師の人材育成を中心とした講義を日臨技副会長横地先生からお聞きしました。世代ごとの価値観の多様化に対し、まず傾聴・コミュニケーションをとり、情報共有していくなど、具体的な講義は明日から実践しようと思える内容でした。

午後の部では、グループワークが行われ、各グループでMTSステップ表の作成をして発表しました。目標設定を通じた管理法だそうです。頭の中で漠然としていた目標のイメージが具体的に見えてきて、必要な情報を1枚にまとめられ、「できる」という気が出てきます。大変勉強になりました。そして何よりも他施設の方と意見交換できた事は貴重な体験となりました。この講習会に参加したことで、自分自身の未熟さを知り、またこれを持ち帰って実践することにより若手技師の育成に繋げて、検査室のあり方、存在意義の確立に役立てたいと思っております。本当に充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございます。

深谷赤十字病院

持田 文菜



平成31年2月24日に開催された平成30年度埼臨技リーダー育成研修会に参加させていただきました。

まず、中堅技師に求めるリーダーの資質についての講義がありました。医療情勢の変化や病院の方針を踏まえ、検査技師が臨床の場において患者やスタッフのニーズに答えるため何をすべきか、常に先見性を持って考え一歩踏み出していくことが大切だと感じました。また、グループワークとして、『臨床検査技師が積極的にチーム医療の一員になるためにはどうすればよいのか?』をテーマにMTSステップ表を使用して問題解決の道筋・プロセスを考えました。MTSステップ表を用いることで目標達成に向けたイメージを具体的に考えることができました。また、意見交換・グループ発表を行いました。いただいた意見を参考に視点を変えてみることで、より良い問題解決方法を挙げる事ができ、とても充実した時間を過ごさせていただきました。

本研修会の講師の先生をはじめ、参加された臨床検査技師の皆様、ありがとうございました。



平成30年度 第2回検査室運営研修会に参加して

平成30年2月26日(火)大宮ソニックシティ602号室にて平成30年度第2回検査室運営研修会が開催されました。今回の研修会は、第1回検査室運営研修会時に行ったアンケート集計をもとに本研修会が企画されました。『こんな時、皆さんどうしていますか?クリニックから大学病院までの情報交換会 ～ズバツと解決!? 日常業務の問題点～』をテーマに「①法律改正後の精度管理 ②検査機器の購入・更新とメンテナンス ③コスト削減対策 ④日常業務での結果判定に困惑! どうしている?」の4点を中心に、本研修会参加者と検査室管理運営委員会委員との座談会形式で行いました。

- ①精度管理に関しては、法律改正が2018年12月1日より施行となり、参加施設の多くでは、すでに各種台帳を作成し運用しているとの回答がありましたが、しかし、これから準備に取り掛かるとの回答の施設もあり県内の施設全体が整備されるまでには、まだまだ時間がかかる様に見られました。
- ②機器の購入・更新とメンテナンスでは各々の医療機関の懐事情もあり、明確な答えは出せませんでしたが、リース購入が大半を占めており、更新目安もメーカー推奨の耐用年数を超えても使用しているところがほとんどでした。また保守契約などについては、リース契約に含めているとの施設もありました。
- ③コスト削減対策は時間の関係上、あまり意見交換ができず今後の課題としました。
- ④日常業務での結果判定に困惑! どうしている?については、小規模・少人数の検査室では相談をする相手がなかなか存在せず、非常に苦勞しているのがわかりました。技師会研究班と協力して「相談窓口を設置する」など、何か役立てられるものがないかという意見も出ており、理事会等で検討をしていただければと思います。

今回の研修会を通して、県内の小規模施設での実情を知ることができ、非常に有意義な研修会であったと思います。私自身パネラーとして、勤務先の現状をお話する立場での参加となり、出席していただいた会員の方々にうまく伝えることができたかどうか不安でしたが、貴重な体験をさせていただきました。来年度のテーマは、今後検討することになりますが、たくさんの会員の方にご参加していただける様な企画を提案できたらと思います。ありがとうございました。

(文責:伊藤隆史)



求人案内

これまで掲載しておりました求人案内ですが、リアルタイムに会員の皆様に情報をお届けする観点から、2019年3月をもちまして埼臨技だよりへの掲載を終了することとなりました。

求人案内は、引き続き埼臨技ホームページ (<http://www.sairingi.com/recruit.html>) をご覧ください。

多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会を開催して

平成31年3月16、17日の2日間、さいたま赤十字病院にて多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会を開催いたしました。最初に岡田副会長に「臨床検査技師が他職種を知る意義」について講演していただき、引き続き他職種（看護師、理学療法士、臨床工学士、薬剤師）の講師による講演および実技指導が行われました。理学療法士による実技指導では3班に分かれて、実際にベッドや車いすを使用して患者移送術を学び、臨床工学士による実技指導ではDC、輸液ポンプ、モニターなど、身近なベッドサイド機器でありながら、なかなか正しい操作法を知らない機器について指導していただき、大変参考になりました。受講生からの感想も好意的な言葉が数多く寄せられ、実務委員一同ホッとしております。

今回受講生18名とやや少なかったですが、実技習得にはちょうど良い人数であったと感じられ、今後の講習会開催にあたっての留意事項と思われます。最後に講演・実技指導および開催にご協力いただいた皆様に深謝いたします。

(文責：神嶋敏子)



以下に参加された方の感想を紹介します。

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院
小林 保彦



「他人と最もうまく協力できる人が最大の成功を収めることになる」鉄鋼業界で成功を収めた実業家アンドリュー・カーネギーが残した格言ですが、病院組織内における多職種連携にも同じことが言えると今回の講習会に参加して強く感じました。臨床検査技師が検査室から飛び出し多職種とうまく協力するためには、協力する相手や新たに活動するフィールド・設備を知ることが大切であり、そのための能力を磨く内容でした。

患者との適切な安心を与えられるコミュニケーションの取り方、患者・職員ともに安全で無理のない移乗方法、病棟でみられる代表的なベッドサイド医療機器の操作法、トラブルシューティング、検査結果による薬剤体内動態の予測など、病棟で臨床検査技師が活動する際に直面するであろうトピックスが目白押しでした。また検査室での業務にも役立つ内容も多く盛り込まれ、明日からの業務に取り入れていけたらと思います。

臨床検査技師の「臨床」が意味するところと、現状とのギャップについても考えさせられる内容でした。今回の講習会に参加することでそのギャップを埋める準備を始めることができたと感じています。今後いろいろなシーンで活躍できる臨床検査技師になれるよう、多職種とうまく協力できるように第一歩を踏み出せたらと思います。

越谷市立病院 熊谷 佳奈江

今回「平成30年度 多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会」に参加させていただきました。同じ病院で働いていても他の職種の仕事内容はよくわからず、将来の職業を決める子供のようにワクワクしながら講習会に向かいました。

講習会では、私たち検査技師が明日からでも役立つ内容が盛りだくさんでした。座学と実技が対になってカリキュラムが組まれており、講義で得た知識をすぐに見て触れて体験することによって理解が深まりました。ベッドと車いすを使用しながらの患者移送技術については患者さんが辛いことだけでなく、自分の体を傷めないようにするポイントも理学療法士の方に丁寧に教えていただきました(ペアで実技もします!)。臨床工学士の方からは輸液ポンプの仕組みやエラーの機序、

モニターの見方やDCの幅広い用途など実物を見ながら説明していただき、普段は触れられない機器も実際に触らせていただくことができました。

チーム医療が重要となっている現在、多職種の方々と連携をしていくためにはその業務内容を知っておくことが、スムーズなコミュニケーションに繋がると感じ、とても新鮮で有意義な講習会でした。



第47回 埼玉県医学検査学会情報

開催日：2019年12月1日(日)

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：「飛翔」

サブテーマ：－『進化』から『昇華』へ－



第47回埼玉県医学検査学会
学術部 鈴田 和樹

ようやく春が来て、桜が咲き、新年度を迎えた今日この頃。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

この度、第47回埼玉県医学検査学会にて学術部を務めさせていただきます、東松山市立市民病院の鈴田和樹と申します。

平成31年度を迎えたばかりですが5月には元号が新しくなり、新元号での年度が始まります。平成が終わり、まさに新時代の幕明です。そんな新元号を迎えた最初の記念すべき本学会に、実行委員として参加させていただき運びとなり、とても光栄に感じております。はじめての学会実行委員なので至らない点等たくさんありますが、学会を大いに盛り上げるべく尽力させていただきますのでどうかよろしくお願ひします。

また“5月1日”より一般演題の募集受付を開始いたします。昨年度もたくさんの申し込みをいただきましたが、それを越える演題数を目指していますので、実行委員一同首を長くしてお待ちしております。

さらに前回に引き続き、学生演題も募集しますのでこちらも併せてよろしくお願ひします。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ **腹部超音波実技講習会 スクリーニングから急性腹症アプローチまで！**

主催 生理検査研究班

実施日時：平成30年 8月11日 9時30分～17時30分

会場：自治医科大学附属さいたま医療センター 南館 2階講堂 点数：専門教科－20点

講演 1：腹部スクリーニング ～診断精度を高める手技を習得しよう～

講師：野本 隆之（上尾中央医科グループ 吉川中央総合病院）

講演 2：消化管急性腹症の超音波診断

講師：長谷川 雄一（成田赤十字病院）

実技 1：胆・膵・消化管

実技 2：肝・脾・腎・その他

実技講師：長谷川 雄一（成田赤十字病院）

吉田 有紀（成田赤十字病院）

野本 隆之（上尾中央医科グループ 吉川中央総合病院）

仲野 浩（埼玉医科大学病院）

田名見 里恵（上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院）

参加人数：会員72名

出席した研究班班員：早川勇樹 仲野浩 瀧澤義教 野本隆之 高梨淳子 武藤由里子

田名見里恵 園部由香

研修内容・感想など

講演 1：腹部スクリーニング

肝左葉の腫大を評価する大動脈断面では鈍化を評価してしまう事や普段何気なく評価している肝腎コントラストや高輝度肝にもピットホールが存在し、その対策を具体的に説明いただいた。胆嚢病変では可動性の証明の重要性とその方法を説明し、胆道・膵臓では多くの死角が存在し、その対応を理論的に示していただいた。

また急性腹症アプローチでは回盲部の描出と虫垂炎の発症機序や穿孔の見方にも触れられ、回盲部の検査はもはや腹部超音波のスクリーニングすべき部位であり、私を含め苦手意識を持っている技師も積極的に取り組んでいくべき部位と考えさせられた講演であった。

講演 2：消化管急性腹症の超音波診断

急性腹症の40%は消化管病変であり、消化管描出の重要性を示された。一方ガスの存在や可動性に富んだ描出部位であり、描出が難しい部位であるが、病的状態の消化管の方が見えやすいと言われた。消化管の系統的操作法を丁寧に説明していただき、また多くの症例を示し、痛みの部位や種類から何を疑い検査するのか、どうアプローチしていくのかを系統立てて理論的に説明していただいた。

結びとして、判断に苦慮する超音波所見を早急に診断に結び付けるのではなく、冷静に判断する事が重要であると結んだ。

また長谷川氏の施設では、人間ドックでも消化管症状を訴える方は消化管も数分で見ているとの事で感銘を受けた。

実技講習

経験年数を目安に、目的別にグループ6名で構成し、それぞれ班で各人のレベルに合わせた実技講習を熱心に行ない、参加者に大いに役立つものとする。

（文責：仲野浩）

テーマ **不規則抗体における酵素法の意義**

—不規則抗体の特性から検査方法、酵素法の意義まで詳しく解説します—

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成31年 2月22日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：基礎教科－20点

講師：小野 昌樹（株式会社イムコア ストラテジックセール部）

参加人数：会員73名

出席した研究班班員：渡邊一儀 長谷川卓也 久保居由紀子 宮澤翔子 小林真弓 伊藤佳世
山田攻

研修内容・感想など

輸血前検査としてABO血液型と同様に重要な検査が不規則抗体検査である。今回の講演は我が国において不規則抗体検査、あるいは交差適合試験で広く使われてきた酵素法について、その臨床的意義を問う内容である。このテーマはこれまでも、様々な学会や研修会で扱われており、今日まで多様な意見が交わされている。

今回の講演では、代表的な不規則抗体について詳細な説明が行われた。不規則抗体のネーミング由来や、最新頻度など、会場では真剣にスライド画面を記述する姿も見られた。

酵素法の意義については、有名なIssittやClarkらの研究が紹介された。海外では我が国ほど酵素法が重要視されていない。その為に酵素法で不規則抗体が検出された患者に、その抗体に対する抗原陽性の赤血球製剤を輸血した報告も少なくない。彼らの報告はそうした患者の輸血後の様々な変化を科学的に検証したものであった。

このように臨床的意義については、実際に輸血を行った場合の経験によるところが大きい。我が国の場合はこうした実例に乏しいため検証が非常に困難な面がある。臨床的意義のある不規則抗体の見落としはあってはならない。酵素法の意義については、多様な面から十分に時間をかけて検討する必要がある。
(文責：山田攻)

テーマ 免疫染色 ～染色性や自動染色装置の違いをみる～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成31年 2月28日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13集会室 点数：専門教科－20点

講演 1：免疫染色 (Ki-67) の染色性とアンケート調査報告

講 師：岡村 卓哉 (獨協医科大学埼玉医療センター)

講演 2：自動免疫染色装置の各社の違いをみてみよう A社

講 師：岡村 卓哉 (獨協医科大学埼玉医療センター)

講演 3：自動免疫染色装置の各社の違いをみてみよう B社

講 師：秋葉 浩一 (株式会社ピーシーエルジャパン 病理細胞診センター)

講演 4：自動免疫染色装置の各社の違いをみてみよう C社

講 師：今村 尚貴 (川口市立医療センター)

参加人数：会員53名 (申請中を含む)

出席した研究班班員：岡村卓哉 三鍋慎也 細沼佑介 高橋俊介 金泉恵美子 小島朋子
関口久男 今村尚貴 森田繁 荻真里子

研修内容・感想など

今回の研修会は20施設の方々に協力して頂いたアンケートの回答及びKi-67の免疫染色性の調査報告と、自動免疫染色装置の各社の比較検討を行った。

講演1のアンケートの結果から見てきたのは染色手技の多様性であった。抗体のクローン・検出試薬・賦活化液の種類と方法・自動染色装置または用手法等、施設によって様々であった。染色性の色調や強弱の差は認められたが、Ki-67indexは議論の余地はあるものの48～57%の間に納まった。自動免疫染色装置の機種によるプロトコールの統一化で標準化を図りたいと締め括られた。

講演2～4は自動免疫染色装置について、演者一人が1社を担当しそれぞれ装置の特徴や長所・短所などを講演された。各社ともいくつかの機種があり、性能を熟知した上で自施設に合った装置の選択が必要という事であった。

免疫染色は病理診断に直結する重要な染色である。結果により手術の方法や治療の方針が大きく変わってしまうため、確実な染色が必須であり、研究班でも研修会などを通じて広く訴えかけていくことが望まれる。
(文責：荻真里子)

テーマ 平成30年度 脂質ミニサーベイ報告会

主催 臨床化学検査研究班研修会

実施日時：平成31年 3月 6日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 604号 点数：専門教科－20点

講演 1：総論

講 師：大出 淳（埼玉医科大学総合医療センター）
講 演 2：総コレステロール
講 師：羽田 幸加（LSIメディエンス 川越ラボラトリー）
講 演 3：中性脂肪
講 師：小林 麻里子（北埼玉医師会メディカルセンター）
講 演 4：HDLコレステロール
講 師：北川 裕太朗（埼玉医科大学病院）
講 演 5：LDLコレステロール
講 師：巖崎 達矢（東松山医師会病院）
参加人数：会員33名 賛助会員6名
出席した研究班班員：巖崎達矢 永井謙一 大出淳 大谷真澄 安田達明 三木隆治 藤本丈志
小林麻里子 羽田幸加 北川裕太朗

研修内容・感想など

今年度も臨床化学検査研究班による脂質ミニサーベイ報告会を実施した。今年度も前年度と同様、7種類の試料を用いて44施設を対象とし、辞退1施設を除く43施設についてサーベイを実施、解析した。

27回目を迎える本報告会では、ヒトプール血清を用いた脂質4項目の施設間差確認や啓発を行うとともに、脂質測定の実験原理や日常ルーチンにおける問題点を研修会にて受講し理解していただくことを目的として行っている。

総コレステロールについては、全参加施設がメーカー指定の標準物質を用いコレステロール酸化酵素法にて測定が行われた。使用機器・試薬による大きな施設間差は認められず、過去数回のサーベイを比較しても低・中・高濃度全ての試料において許容限界から外れた施設数は減少しており、良好な結果を示している。

中性脂肪については全施設がメーカー指定の標準物質を用い酵素法（フリーグリセロール消去法）にて測定が行われた。使用機器・試薬による差はほぼ認められず、許容限界から外れた施設数も少なく良好な結果であった。今回は中性脂肪の基礎や測定原理とともに、脂質異常症の治療薬の特性や作用機序・副作用についても講演され検査結果を評価する上でとても有意義な内容だった。

HDL-コレステロールについては測定原理が一部異なる6社の試薬にて測定が行われた。前年度と同様に結果の試薬メーカー間差による試薬別評価としているが、試料の保存期間等による質的変性が原因と推察されるため、追加検査実施時など注意が必要であると感じた。許容限界を満たした施設割合は前年度とほぼ同様だったが、記載間違いを疑わせる施設もあったため、結果の評価や報告の際はご注意ください。試薬の基本的な測定原理や代謝にも分かりやすく触れられており、研修会参加の意義を感じる内容だった。

LDL-コレステロールについては測定原理が一部異なる6社の試薬にて測定が行われた。例年通り試薬間差が認められ、選択的可溶化法よりも選択的消去法を使用している施設の方が高値傾向にあった。LDL-コレステロールの測定法を含むコレステロール測定の原理や問題点、直接法に必要な不可欠な界面活性剤についても講演されており、脂質検査の実際を学ぶ上で大変有意義な内容だと感じた。

本検討会の解析結果をもとに、日常の精度管理状況や測定結果の評価方法、結果の報告体系を見直す参考としていただきたい。脂質測定は試薬メーカーごとの結果の乖離や脂質異常によるリポ蛋白の反応性の違いなど多くの課題があるため、今後も様々な要素を取り入れながら本検討会を継続し脂質測定の標準化に貢献していきたい。

（文責：安田達明）

テーマ Let's 供覧!! あなたはどう見る? Part.8 -精度管理的視点を含めて

主催 細胞検査研究班

実施日時：平成31年3月8日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 14集会室 点数：基礎教科-20点

講 演 1：症例解説1（問題1～5）

講 師：山崎 泰樹（獨協医科大学埼玉医療センター）

講 演 2：症例解説2（問題6～10）

講 師：鶴岡 慎悟（JCHO埼玉メディカルセンター）

講 演 3：集計結果

講 師：野本 伊織（医療法人熊谷総合病院）

参加人数：会員62名

出席した研究班班員：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 大谷奈穂 松内萌
松本健宏 野本伊織

研修内容・感想など

「Let's供覧!!あなたはどう読む?」は、今年度8回目となる近年恒例の企画であり、各施設や個人の精度管理を主な目的として行っている。埼玉県内の各施設へ10症例の細胞像写真と設問（5者択一形式）をCDで送付し、事前に施設回答・個人回答を回収し、各設問の解答・解説・集計結果を研修会にて報告するという形式で行った。今回は、初の試みとして回答の収集をアンケート回答ソフト（クエスタント）を用いて行い、24施設、95名から回答を頂いた。設問症例の内訳は、婦人科2症例、呼吸器・乳腺・唾液腺・体腔液・泌尿器・消化器各1症例ずつ、その他の領域が2症例であった。

研修会では、まず各設問の細胞像を提示し、次に山崎技師と鶴岡技師より5症例ずつの解答および解説が行われた。症例によっては日常的に他の組織型との鑑別が難しく回答が分かれるものや普段あまり目にすることのない稀症例もあったが、それぞれの細胞所見および他との鑑別ポイントを中心に解説がなされ、自己の所見の取り方を見直す良いきっかけとなった。

次に、回答の集計結果が報告された。今回は、クエスタントによる回答回収に変更をしたため、回答率の減少が危惧されたが、個人回答95名、施設回答24施設とほぼ前回と同様であった。全設問を通じての正答率は、施設回答で86.3%、個人回答で80.2%と概ね良好な結果であった。設問別でみると、子宮頸部・泌尿器・その他（副腎）正答率が他に比較してやや低く、日常診断における課題や稀症例の経験値の低さが要因と考えられた。また、細胞検査業務の経験年数を0～8年、9～16年、17年以上の3つの層に分けて正答率の比較をすると、僅かな差はあるものの、どの層も80%前後であった。設問によっては、経験年数が少ない層の正答率が低くても年数が多い層の正答率が高いものがあり、施設回答の正答率が個人回答を上回る結果に繋がったと考えられた。

個々が所見の取り方や知識を高めていくことは当然ながら、周囲の方々と日々のディスカッションを通じて、お互いの知識を高め合っていくことが重要であると改めて認識させられた。今後も「どう読む?」の要素を大切にしながら、精度管理としての役目をより果たしていけるよう出題問題の検討も重ね、継続していきたい。

（文責：加藤智美）



お知らせ

第1回 青年部研修会のお知らせ

わたしたち青年部委員会では新人・若手技師同士の交流の場や、みんなで学べる場をつくり、技師会の活動を身近に感じてもらいながら一緒に成長していこう!と活動しています。

記念すべき第1回目の研修会は、みなさまが気になる資格についてです。資格に興味がある方、これから取得予定の方、さらに資格なんか取っても…というそのあなたにも役立つ情報&今までの概念を変えるような内容を企画しています。詳しくは生涯教育プログラムをご覧ください。

- ・日 時：6月7日(金) 19:00～20:30（受付18:30より開始）
- ・場 所：埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター 研修室
（埼玉県立小児医療センター 南玄関側8階）
- ・テーマ：スキルアップでステップアップ ～資格取得からその先へ～

また、研修会後には懇親会も予定しています。参加希望の方は5/29(水)までに、施設名、名前、所属分野を記載し下記までご連絡ください。

- ・懇親会
会 費：4,000円、開始時間：21時～

MAIL：yuta.doyama@saitama-med.jrc.or.jp

連絡先：さいたま赤十字病院 検査部 銅山

青年部一同、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

（文責：稲葉拓郎）

平成30年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第13回 理事会議事録

日 時：平成31年3月14日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 岡田 矢作 松岡 小山
濱本 奈良 長岡 小島 神嶋
菊池 長澤 伊藤 濱田 笹野
石井 神戸 山口 鳥山 猪浦
阿部
(監事) 遠藤

欠 席：(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在数21名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (平成31年2月14日～平成31年3月13日)

2月14日(木)平成30年度第12回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、
濱本、奈良、長岡、神嶋、菊池、
濱田、笹野、石井、神戸、山口、
阿部、遠藤

2月14日(木)会計入力作業：阿部

2月15日(金)第47回埼玉県医学検査学会第4回
実行委員会：奈良

2月16日(土)北部地区研修会：山口、阿部

2月21日(木)臨薬協プロモーション地区会：
松岡

2月24日(日)平成30年度都道府県技師会リーダ
ー育成研修会：

神山、岡田、奈良、長岡、小島、
菊池、濱田

2月24日(日)会計入力作業：石井

2月26日(火)平成30年度第2回検査室運営研修
会：長澤、濱田、笹野、猪浦、奈
良、菊池

3月1日(金)表彰選考審査委員会(メール会議)：
神山、岡田、矢作、松岡、小山、
濱本

3月2日(土)東部地区研修会：猪浦、鳥山

3月2日(土)会計入力作業：神戸

3月5日(火)役員候補者推薦委員会：
神山、岡田、矢作、小山

3月6日(水)会計入力作業：石井

3月9日(土)埼玉医科大学保健医療学部卒業式：
松岡

3月10日(日)東武医学技術専門学校卒業式：
神山(日臨技理事兼務)

3月12日(火)埼玉乳がん臨床研究グループ多職
種合同会議：矢作、神嶋

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 2月21日(木)臨薬協プロモーション地区会
に松岡副会長が出席した。

2) 3月1日(金)表彰選考審査委員会(メール
会議)を開催した。

3) 3月5日(火)役員候補者推薦委員会を開催
した。

4) 3月9日(土)埼玉医科大学保健医療学部卒
業式に松岡副会長が出席した。

5) 3月10日(日)東武医学技術専門学校卒業式
に神山会長が出席した。

6) 3月12日(火)埼玉乳がん臨床研究グループ
多職種合同会議に矢作副会長、神嶋理事が
出席した。

7) 第5回山上の光賞候補者推薦の依頼があっ
たが、候補者なしとした。

8) ゆうメール運賃再見直しの見積もりが届き、
契約を更新した。

9) 東武医学技術専門学校より入学式の案内が
届いた。

日 時 平成31年4月5日(金) 10:30～

会 場 市民会館いわつき

埼玉県さいたま市岩槻区太田3-1-1

祝電対応とする。

10) 日臨技より支部長にあて2018年度・2019年
度役員候補者選出委員の選出について依頼
があり、岡田副会長が推薦された。

11) 第68回日本医学検査学会よりポスターが搬
入された。

12) 地域医療教育センター利用申請の変更通知
が届いた。

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第478号、3月15日発行予定

2) 2月24日(日)平成30年度都道府県技師会
リーダー育成研修会を開催した。

3 事業部

1) 2月26日(火)平成30年度第2回検査室運営
研修会を開催した。

4 学術部

1) 2月16日(土)北部地区研修会を開催した。
参加人数39名。

2) 3月2日(土)東部地区研修会を開催した。
参加人数30名。

3) 埼臨技会誌Vol.66 No.3 3月15日発刊予定

5 精度保証部

1) 特になし。

6 会計部

1) 平成30年度正会員費5名25,000円、入会金
5名分5,000円、合計30,000円の入金があ
った。

- 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金 50,000円の入金があった。
- 3) 初級・職能開発講習会日臨技負担金71,000円の入金があった。
- 4) 石井印刷へ、埼臨技だより第477号印刷代 127,526円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
 - 1) 2018年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査報告書を発送した。
- 8 一都八県会長会議**
 - 1) 特になし。
- 9 日臨技関甲信支部**
 - 1) 特になし。
- 10 日臨技**
 - 1) 特になし。
- 11 第47回埼玉県医学検査学会**
 - 1) 2月15日(金)第47回埼玉県医学検査学会第4回実行委員会が開催された。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(平成30年度分)

平成31年 3月 1日現在

 会員数 3,031名[平成29年度会員数2,897名]
 (新入会員 275名)
 賛助会員 82社[平成29年度 86社]
 承認された。
- 2) 埼臨技特別功労賞候補者の選出について。
 埼臨技前会長、津田聡一郎氏を埼臨技特別功労賞候補者として推薦したい。
 第46回医学検査学会学会長 鈴木英之氏を埼臨技功労賞候補者として推薦したい。
 承認された。
- 3) 2019年度埼臨技永年会員表彰者について
 承認された。
- 4) 平成30年度臨時会員総会時定表について
 承認された。

2 総務部

第47回医学検査学会関連

- 1) 第47回埼玉県医学検査学会、ロゴマークについて
 商標登録等への抵触に関する疑義が出されたが、WEB確認では近似する例もないため承認された。
- 2) 第47回埼玉県医学検査学会、賛助依頼書について
 承認された。

3 事業部

- 1) 特になし。

4 学術部

- 1) 特になし。

5 精度保証部

- 1) 特になし。

6 会計部

- 1) 複合機の購入について別紙資料15のとおり事務局・会計部で検討したところ、価格、保守、汎用性を鑑みて現行使用メーカーのリコーに決定し仮発注した。
 承認された。

7 精度管理委員会

- 1) 特になし。

8 第47回埼玉県医学検査学会

- 1) 特になし。

Ⅳ. 議題

総務部

- 1) 求人広告案内の埼臨技だより掲載の中止について
 だよりの求人欄にHPのURLを掲載することで承認された。

事業部

- 1) 臨床検査技師養成校連絡協議会の要望について
 先方からの正式な依頼に基づき実施することで承認された。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

4月になりました。桜も開花し、私も植物たちと同じで陽気に誘われ気分がワクワクしてくる季節です。桜は心待ちにしていた春の象徴の花です。皆様、お花見はされましたか？

桜は観賞だけでなく、桜湯や、桜餅の食品以外にも漢方の生薬に桜の皮が使われたり、薬としても用いられてきましたので、風邪予報に効果があるそうです。

さて、日本ではこの良い季節から新年度です。新入職員が活躍の一步を踏み出します。このあしがきを執筆している自分も新人と同じように、心の若さを保つため、気分だけは初々しさを忘れないようにと感じています。



(奈良 記)